

学校教育目標	<心をつなぎ 笑顔いっぱい みんなが輝く平戸台っ子> ○めあてに向かって 粘り強く取り組み 互いに学びあえる子を育てます。(知) ○自分も友達も大切に 心豊かな子を育てます。(徳) ○心と体を大切に たくましく生きる子を育てます。(体) ○住んでいるまちのよさを知り 共に生きていこうとする子を育てます。(公) ○社会への視野を広げ 柔軟に対応できる子を育てます。(開)			
	創立 44 周年 児童生徒数: 229 人	学校長 丹波 悟亮 主な関係校: 平戸中学校 平戸小学校 品濃小学校 東品濃小学校	副校長 秦 恵美子	2 学期制 一般学級: 10 個別支援学級: 3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	平戸中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的な取組
自分らしさの発揮(自己肯定感) 伝え合う言葉の力	平戸中 平戸小 東品濃小 品濃小	自ら学び、互いの違いを認め、思いやりの心を持ち、地域や社会とのつながりを大切にすることも ・小中合同授業研究会を通して、「親」の共有、児童・生徒理解の共有を図る。 ・9年間で育てる子ども像に沿った児童・生徒への支援。 ・相互評価を通して、職員間の相互交流を図る。

中期取組目標	子ども一人ひとりの思いや願いを大切に、自ら学び続ける児童を育てます。【合言葉「ひらりん cha-cha-cha」】 子どもたちが「学びのchanceを生かし」「自分の可能性にchallengeすることで」「自信や元気をcharge」するために、「3つの感」に取り組めます。 【感】ひらりんcha-cha-chaで 心 動く 【感動】本物と出会う体験的な学びを大切にします。 【感謝】地域学校協働本部台小サポーターズ等による充実した学びを大切にします。 【美感】きょうしつ(気付く、寄り添う、受けとめる、信頼される大人になる、繋ぐ)による児童に寄り添った安心安全な学びを大切にします。
---------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①児童が問題意識をもって楽しく学習に向かい、学習後に主体的な学びを可能とする振り返りを行う。②言葉を大切に伝えた伝え合う活動や体験的な学びを取り入れ、思考力判断力表現力を育てる授業を展開する。③教科分担任や少人数指導を計画的に行い、複数の教員で個に寄り添った丁寧な指導を目指す。
徳 人権教育	①たてわり活動を年間に位置付け、異学年交流の中で互いを思いやる心情を日常的に育む。②ボランティアの方々とふれあい、様々な人とのコミュニケーションを楽しむ子どもを育てる。③自然体験などの体験活動を多く取り入れ、豊かな感性を育てる。④多文化共生を意識し、多様性を認める心情を育む。⑤あいさつを大切にしようとする心情を育む。
体 健康教育	①教科学習、たてわり活動等を通じて体を動かす機会を設け、体を動かす楽しさを感じられるようにする。②学級活動、給食指導、教科指導(保健)、学校保健委員会等を通じて、健康に対する意識を高め、日常生活を送れるようにする。③体力テストを基に児童の実態に合った体力の向上を意識した授業づくりを行っていく。
公開 地域学校協働活動	①台小サポーターズ(地域学校協働本部)を積極的に活用し、児童の学びを支えたり、児童が地域の方から学ぶことができる授業や活動を展開したりする。②児童の安全な登校のため、見守り隊情報交換会を定期的に行う。③「学校運営協議会」を中心に、保護者や地域が教育活動に積極的に参画するコミュニティをつくる。
いじめへの対応	①年4回の児童アンケートや普段の様子などから人間関係や集団特性を捉え、いじめの未然防止と早期発見に努める。②月1回のいじめ防止対策委員会や、その都度応じて情報交換を密に行い、全職員で共通理解しながらいじめに対し組織的に対応する。③できたことを価値づけたり、よさを認め合ったりすることで、自他を大切にすることを培い、自己肯定感を高められるようにする。
人材育成・組織運営(働き方)	①ブロック内の教科担当制により、チームで学習指導をしたり、児童をみとったりし、授業改善に努める。②研修の内容を精選し、短時間でも内容の濃いものを行う。年齢や経験値を超えて相談しやすい職員集団をつくる。③会議の議題を精選し、時間短縮を図るとともに、持続可能な学校づくりを目指して働き方改革に努める。
児童指導	①学習や生活のきまりを適宜見直しながら共通理解を図り、チームで指導する。②きまりの意味や大切さを児童とともに考え、安心して過ごせる学校づくりを目指す。③児童一人ひとりの思いに寄り添いつつ、指導すべきところは指導し、児童のよりよい成長につなげる。④横浜プログラムを年間計画に位置付け実態に合わせて活用しながら、児童の自尊感情や社会的スキルを育む。
個に応じた学習指導	①算数少人数指導などを通して、ひとりひとりの学習状況を把握した分かりやすい指導に取り組む。②取り出しや入り込み指導などひとりひとりの実態に合った学習指導の形態や方法を工夫する。③国際教室では多文化を尊重しながら、ことばを大切に伝え合いができるよう努める。
特別支援教育	①全職員で個別支援に関する児童についての共通理解を図り、インクルーシブ教育の実践に向けて組織的に対応する。②「きょうしつ」を合言葉に、関係機関と密に連絡を取り、支援の必要な児童への働きかけを速やかに行う。③一般級と個別支援学級の交流を深め、児童が互いに理解し合うことができるようにする。
a15	b10